

海運業の重要性に関する講座を関西電力舞鶴発電所にて実施

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として展開した「船ってサイコ〜」をはじめ、海運の重要性を一般の方々にご認識いただくべく広報活動に力をいれており、特に青少年を対象に海運や船員の仕事への理解増進に取り組んでおります。

また、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運のものを取り上げていただくよう、海事都市を中心にお願いをしており、地元の関連施設と組み合わせた見学会等も企画・実施しております。

今回は、川崎汽船が舞鶴市にて昨年より実施している石炭船と石炭火力発電所見学の一環として、関西電力と共催で、舞鶴市の協力を得て、7月3日(月)に「外航船による石炭輸送講座(海運産業を中心とした物流事業の重要性)」を関西電力舞鶴火力発電所にて実施したもので、当協会は資料提供等の協力をしました。

当日は舞鶴工業高等専門学校・機械工学科 3 年生 39 名が参加し、燃料を運ぶ石炭船の概要や、石炭船による海上輸送が日常生活に欠かせない電気を作る上で重要なサプライチェーンの中核を担っていることを学び物流を通じた産業間の連関への理解が深まる機会となりました。

また、機械工学科の学生が対象であったことから、川崎汽船の機関長より、船上での業務や機関部の仕組み等の講義がビデオ上映等を交えて行われ、学生たちは機関士が通常のオペレーションから、日々の補修・緊急時の修理までに至る全てを一貫して対応している点に興味を示した様子でした。更に、学生たちからは航海中の船員生活の様子や機関士の仕事のやりがい等に関する質問も挙げられました。

なお、石炭輸送講座の後、実際に運ばれてきた石炭が燃料として利用されている関西電力舞鶴発電所見学を通して高度な技術をもって安全管理・環境対応に配慮しつつ効率的に発電されている過程を学生たちは自らの目で見える機会を得たとともに専攻分野の機械工学からの関心に応えた詳細説明を同発電所技術陣から受けました。

当協会では、今後とも各自治体や地元企業等からのご協力も仰ぎながら皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動をしてまいります。



▲講座の様様